

令和6年度 栃木県こどもモニター
第3回アンケート結果
(中学生)

調査実施の概要

1. 栃木県こどもモニターってなに

栃木県は、こどもに関する施策を考えて実現するため、こどもや若者、保護者の意見やアイデアを継続的に集め、政策に取り入れることを目的として「栃木県こどもモニター」を募集します。

モニターのみなさんには、栃木県についてのアンケートから意見を収集し、これからの栃木県の施策やルール作りにつなげていきます。

もっと暮らしやすい栃木県になるように、いっしょに考えよう！

2. 第3回アンケート期間

令和6年10月21日（月曜日）から11月18日（月曜日）

3. アンケート方法

アンケート対象者にメールで回答 URL を送付、WEB サイトを通じてアンケートに回答。

4. モニター数

163名

5. 第3回アンケート回答者数

134名

6. 第3回アンケート回答率

82.2%

※「その他」を選択した場合の自由記述欄は原文のまま掲載しています。

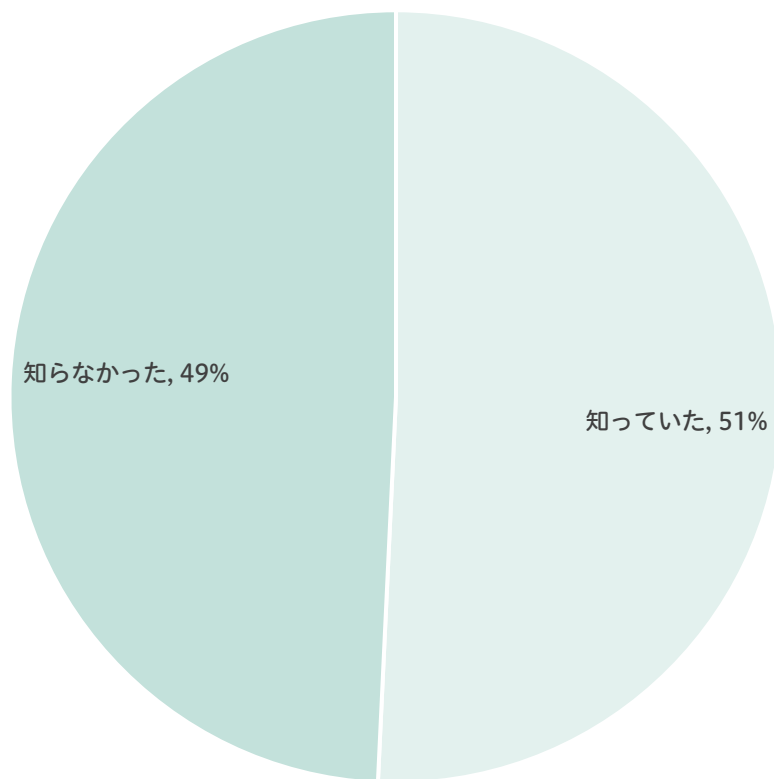
性別	アンケート 対象者	回答人数	構成比	回答率
男の子	74	64	47.8%	86.5%
女の子	89	70	52.2%	78.7%
その他	0	0	0.0%	0.0%
合計	163	134	-	82.2%

学年	アンケート 対象者	回答人数	構成比	回答率
中学1年生	69	60	44.8%	87.0%
中学2年生	59	49	36.6%	83.1%
中学3年生	35	25	18.7%	71.4%
合計	163	134	-	82.2%

※ 集計結果は百分率(%)で示し、小数点以下第2位を四捨五入して算出したものになります。
そのため、合計が100.0%にならないものがあります。

Q1.栃木県の条例の規定により、自転車を利用する人は、自転車損害賠償責任保険等への加入義務があることを知っていますか。

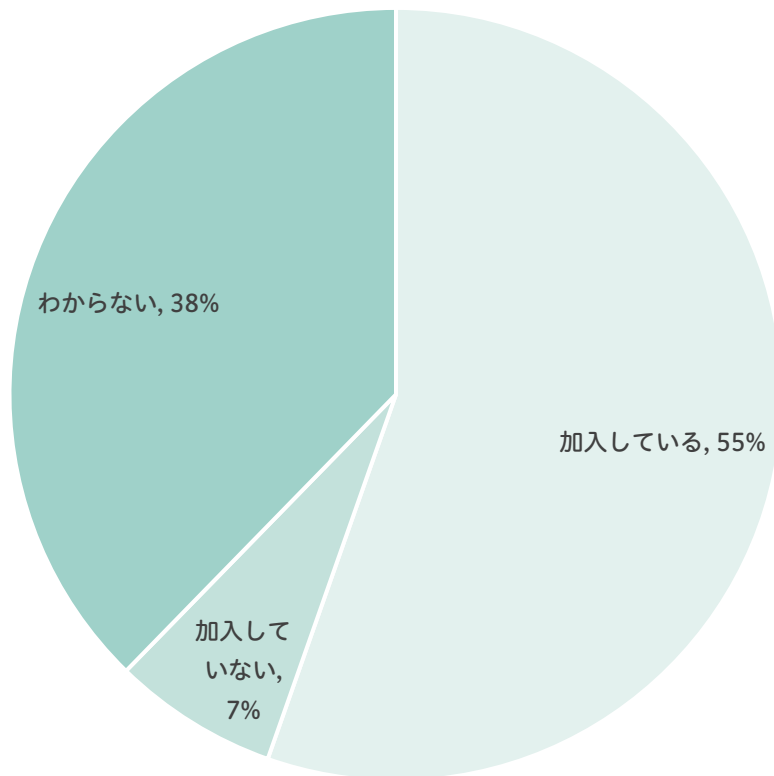
※自転車損害賠償責任保険等とは、自転車の事故で相手にケガなどをさせてしまった場合の補償に関する保険や共済などです。



【調査結果の概要】

「知っていた」(51%)と「知らなかった」(49%)の割合がほぼ同じだった。

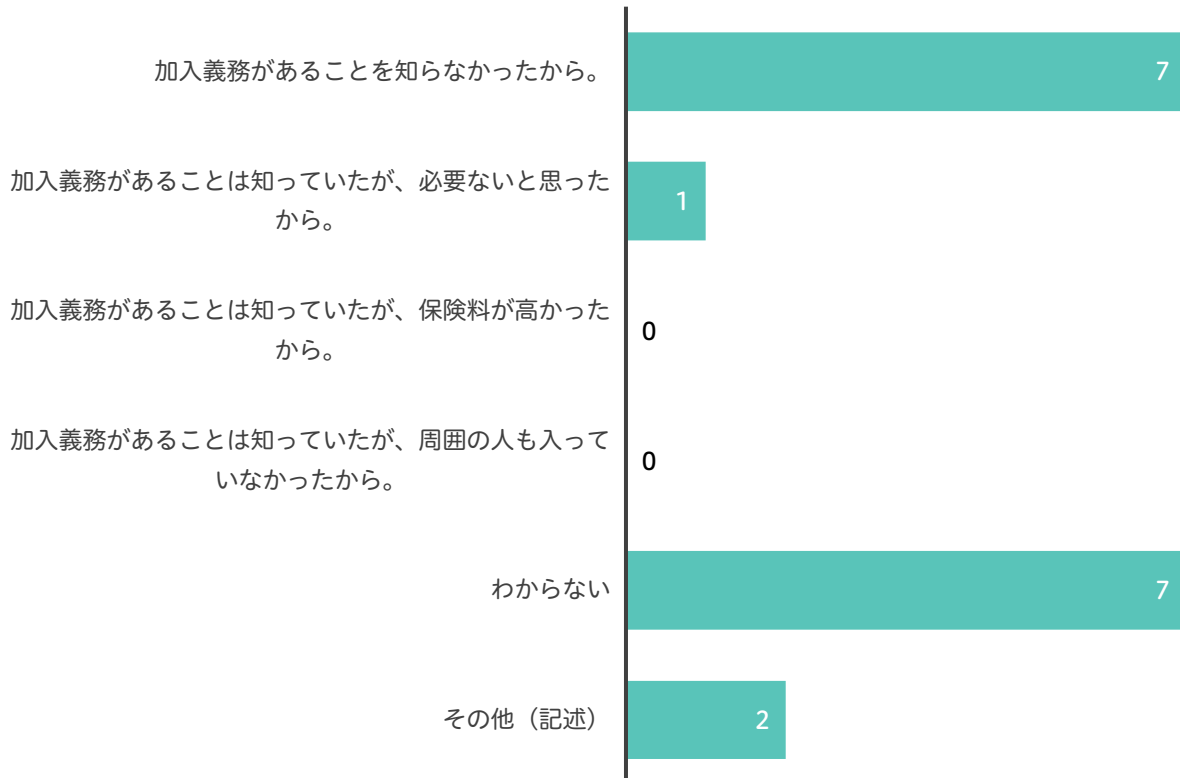
Q2.自転車を利用する人に質問です。あなたは、自転車損害賠償責任保険等に加入していますか。



【調査結果の概要】

「加入している」(55%)が最も多く、続いて「わからない」(38%)、「加入していない」(7%)となっている。

Q3.「Q2」で「加入していない」と回答した人に質問です。自転車損害賠償責任保険等に加入していない理由は何ですか。【2つまで選んでください】



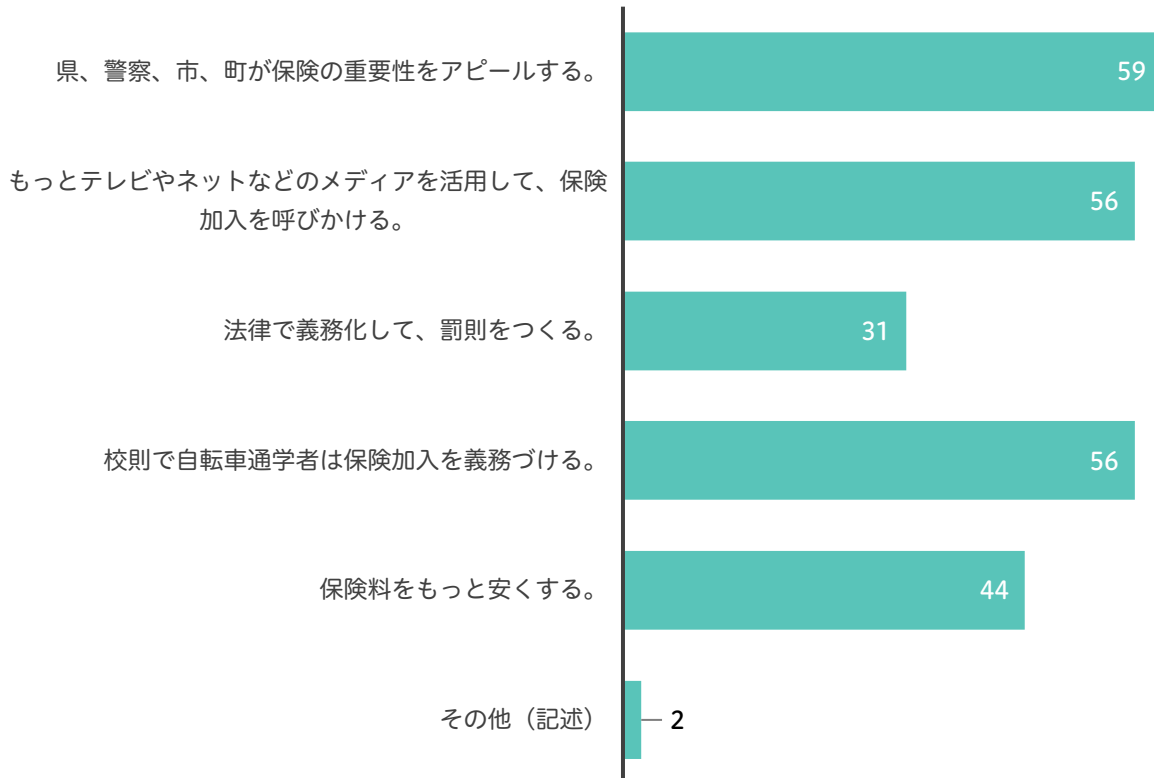
【調査結果の概要】

「加入義務があることを知らなかったから」（7件）と「わからない」（7件）が同数で最も多く、続いて「その他」（2件）となっている。

【その他の自由記述】

- ・ 親に任せている
- ・ 自転車に乗らない 2件

Q4.現在、栃木県の自転車損害賠償責任保険の加入率は、他県に比べ低い状態です。そこで、どうすれば保険の加入率が上がると思いますか。【2つまで選んでください】



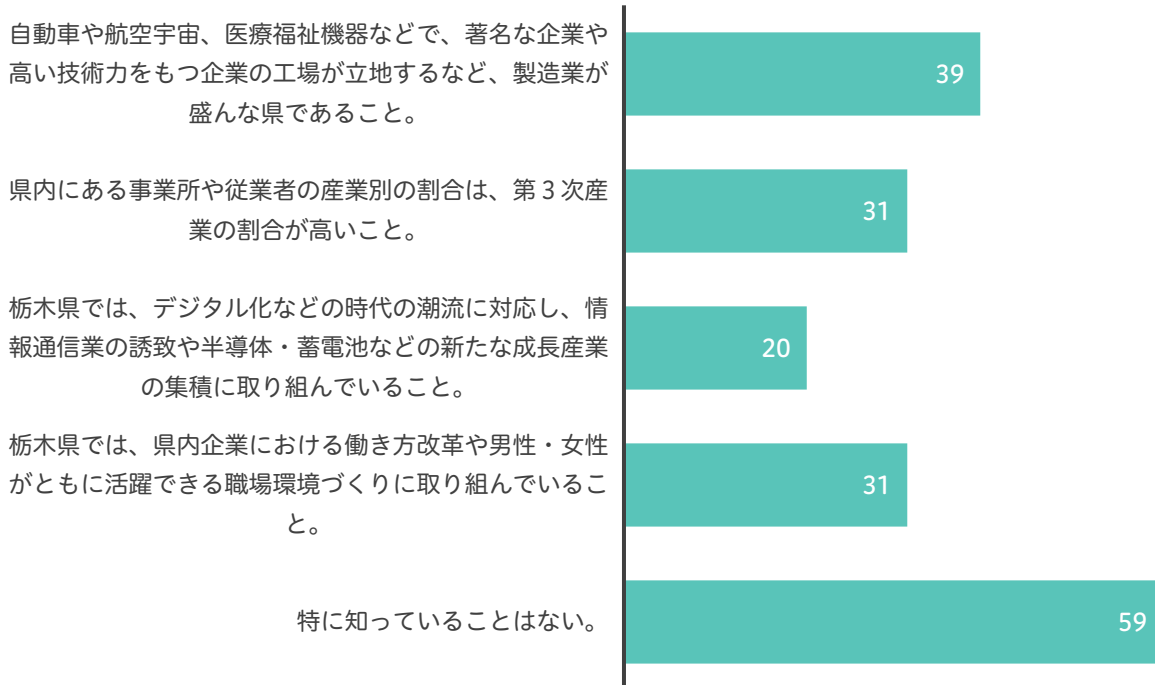
【調査結果の概要】

「県、警察、市、町が保険の重要性をアピールする」(59件)が最も多く、「校則で自転車通学者は保険加入を義務付ける」(56件)と「もっとテレビやネットなどのメディアを活用して、保険加入を呼びかける」(56件)が同数で次に多くなっている。

【その他の自由記述】

- ・ 自転車に乗る人を増やす
- ・ 実際に体験する

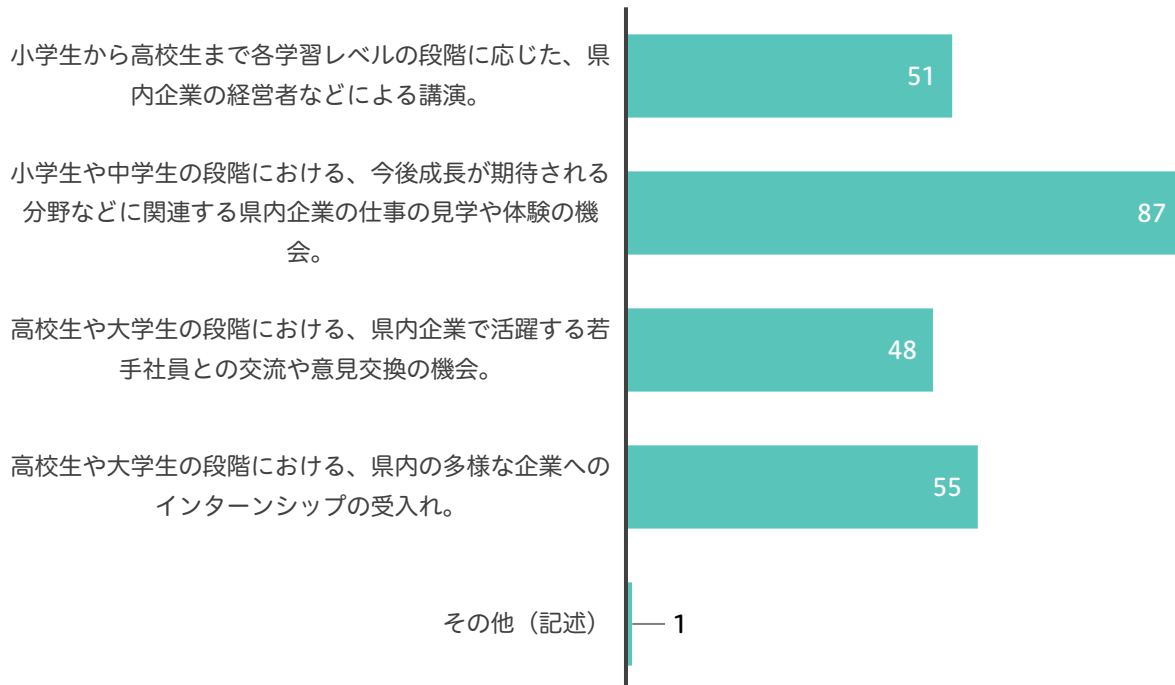
Q5.栃木県の第2次産業（例：製造業、建設業など）、第3次産業（例：卸売・小売業、情報通信業など）の特徴等について、知っているものは次のうちどれですか。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「特に知っていることはない」(59件)が最も多く、続いて「自動車や飛行機、宇宙、医療機器などで、有名な会社や高い技術力をもつ会社の工場があるなど、ものづくりが盛んな県であること」(39件)、「栃木県では、県内の会社で働きやすくする取り組みや男性・女性がともに活躍できる職場環境づくりに取り組んでいること」(31件)、「県内にある事業所や従業員の産業別の割合は、第3次産業の割合が高いこと」(31件)となっている。

Q6.進学で東京や他県にいる人達に対して、栃木県にも魅力的な仕事があることを知ってもらうためには、どのようなことが大切だと思いますか。【いくつでも選んでください】



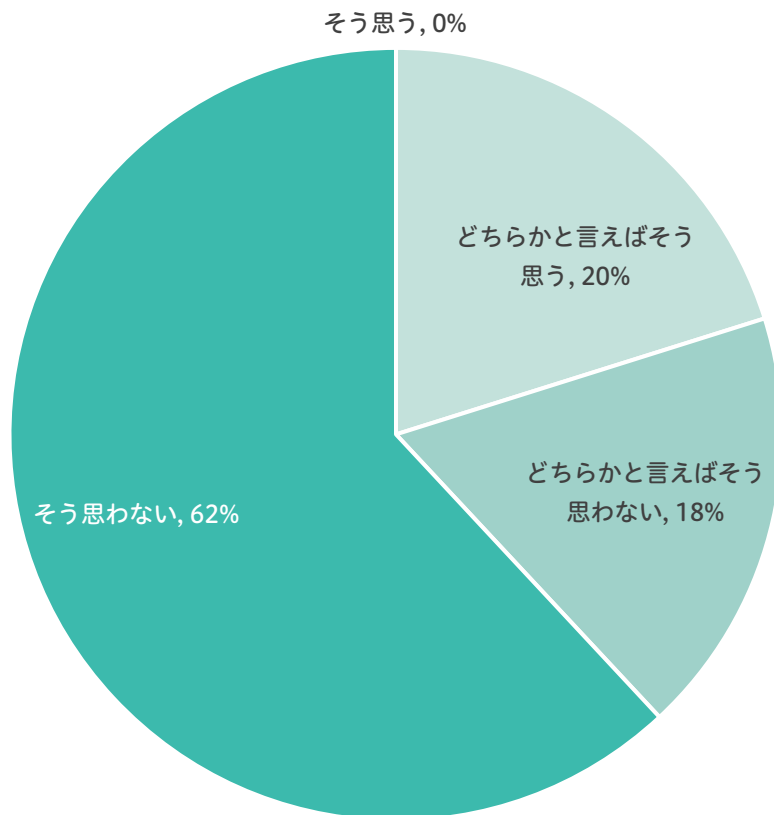
【調査結果の概要】

「小学生や中学生の段階における、今後成長は期待される分野などに関連する県内企業の仕事の見学や体験の機会」（87件）が最も多く、続いて「高校生や大学生の段階における、県内の多様な企業へのインターンシップの受入れ」（55件）、「小学生から高校生まで各学習レベルの段階に応じた、県内企業の経営者などによる講演」（51件）となっている。

【その他の自由記述】

- ・ テレビなどでどのような魅力があるか伝える
- ・ 質問欄を通作る

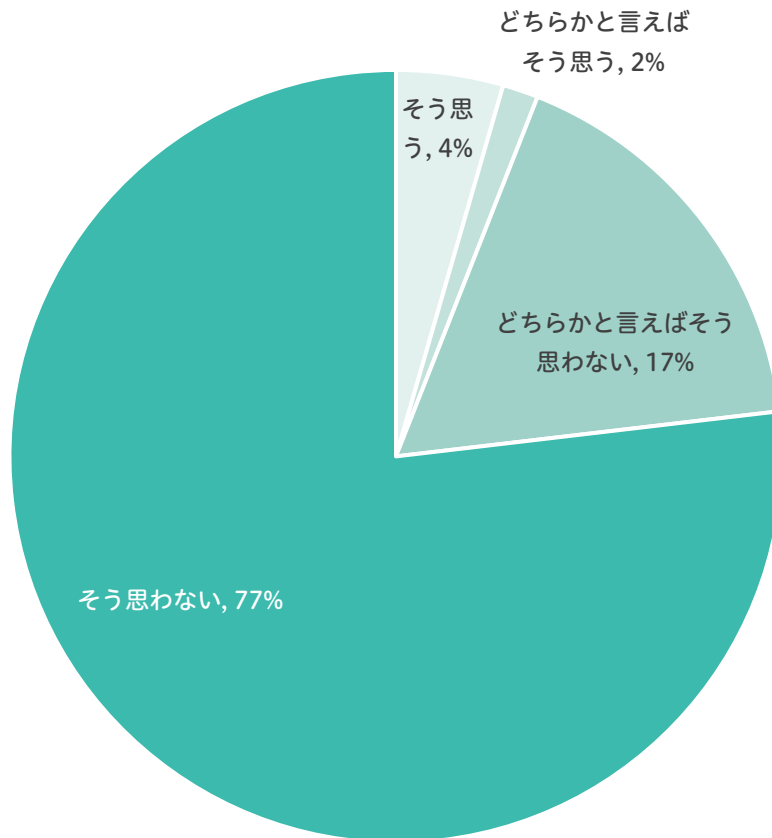
Q7.家事・育児は女性がすべきだと思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(62%)と「どちらかと言えばそう思わない」(18%)を合わせると、8割の人は「家事・育児は女性がすべきだ」と思っていない結果となった。

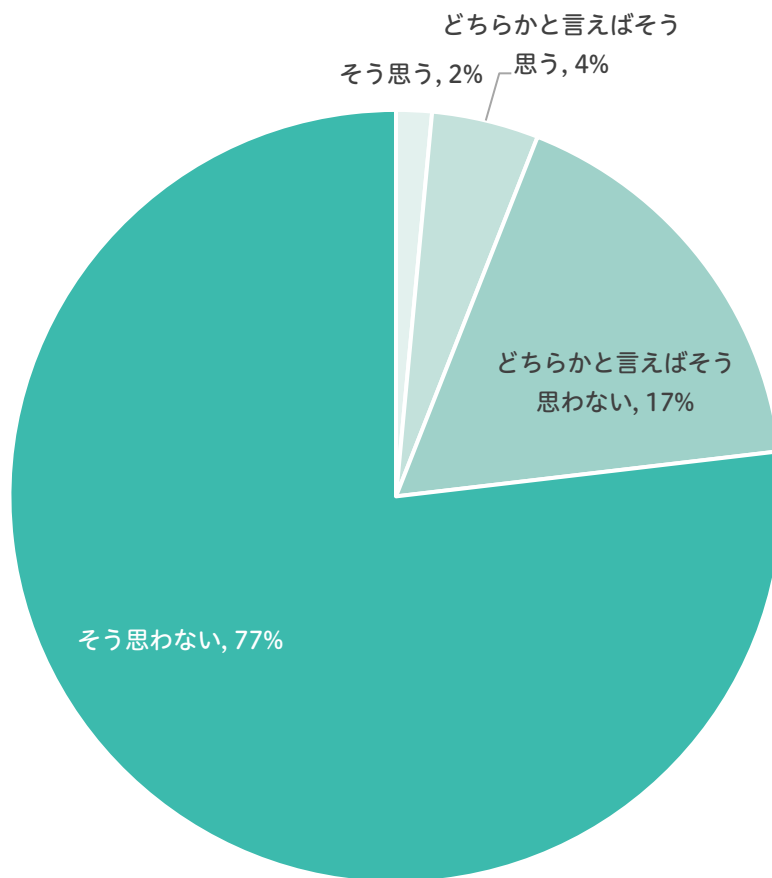
Q8.女性に理系（数学や理科、技術など）の学校や職業は向いていないと思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(77%)、「どちらかといえばそう思わない」(17%)から、9割以上の方が「女性に理系（数学や理科、技術など）の学校や職業は向いていない」と思っていない結果となった。

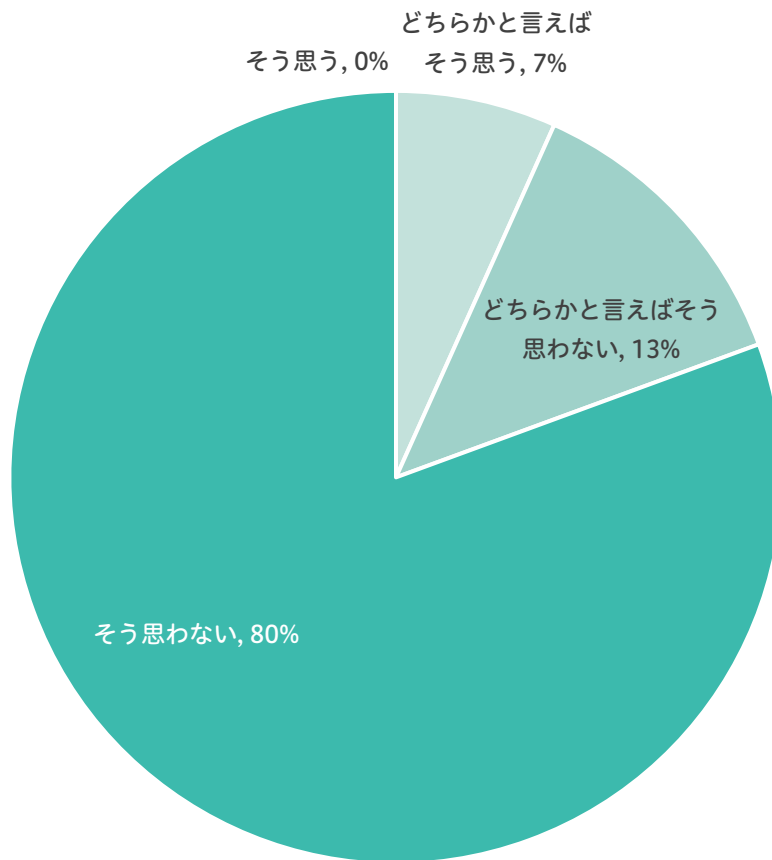
Q9.学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いていると思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(77%)、「どちらかといえばそう思わない」(17%)を合わせると、9割以上の方が「学級委員長や生徒会長は男子が、副委員長や副会長は女子の方が向いている」と思っていない結果となった。

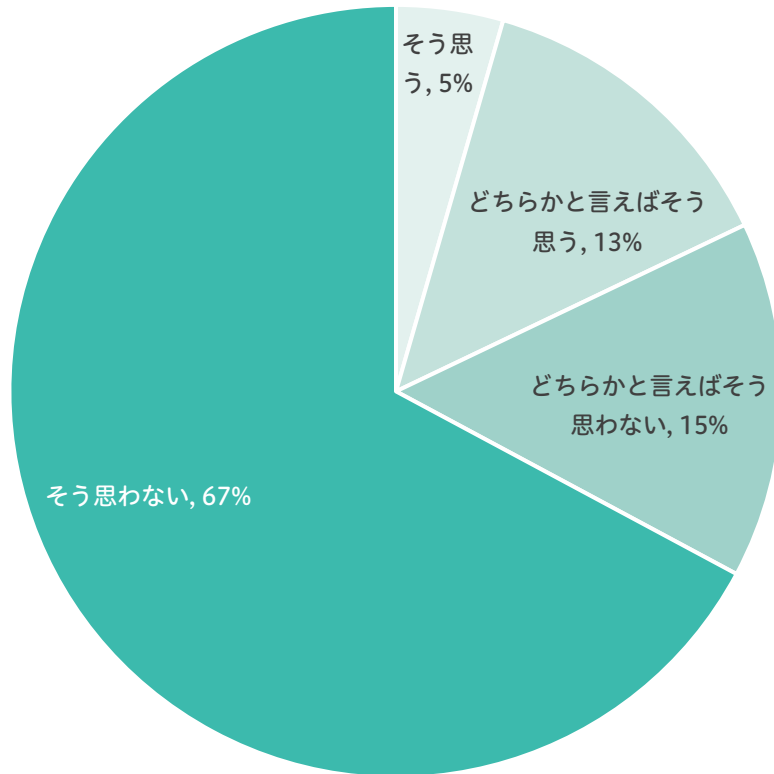
Q10.男性は出産休暇／育児休業を取るべきではないと思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(80%)、「どちらかといえばそう思わない」(13%)を合わせると、9割以上の方が「男性は出産休暇／育児休業を取るべきではない」と思っていない結果となった。

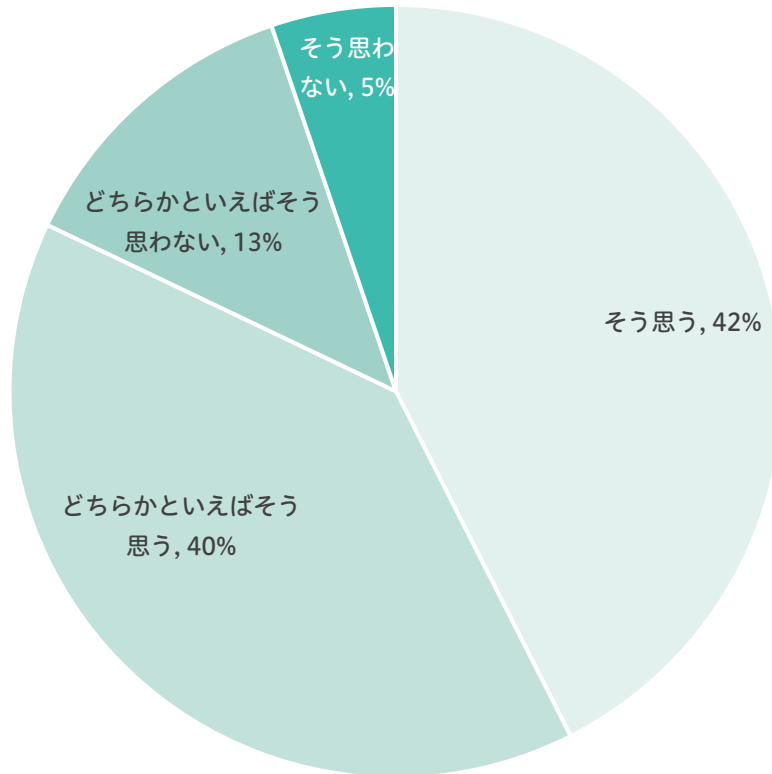
Q11.職場のリーダーは男性が向いていると思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思わない」(67%)が最も多く、続いて「どちらかと言えばそう思わない」(15%)、「どちらかと言えばそう思う」(13%)となっており、8割以上の方が「職場のリーダーは男性が向いている」と思っていない結果となった。

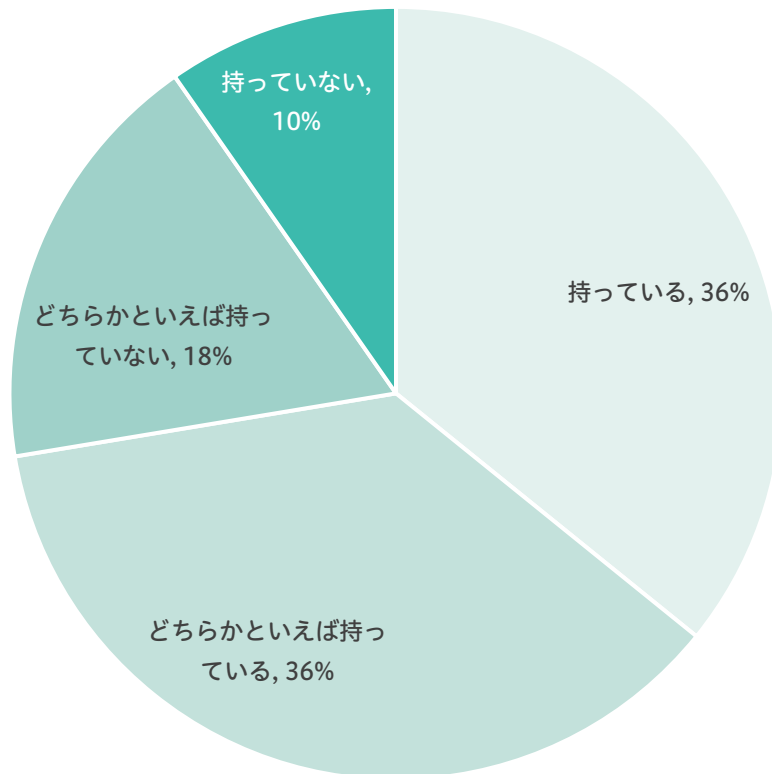
Q12.今の生活が充実していると思いますか。



【調査結果の概要】

「そう思う」(42%)が最も多く、続いて「どちらかといえばそう思う」(40%)、「どちらかといえばそう思わない」(13%)となっている。

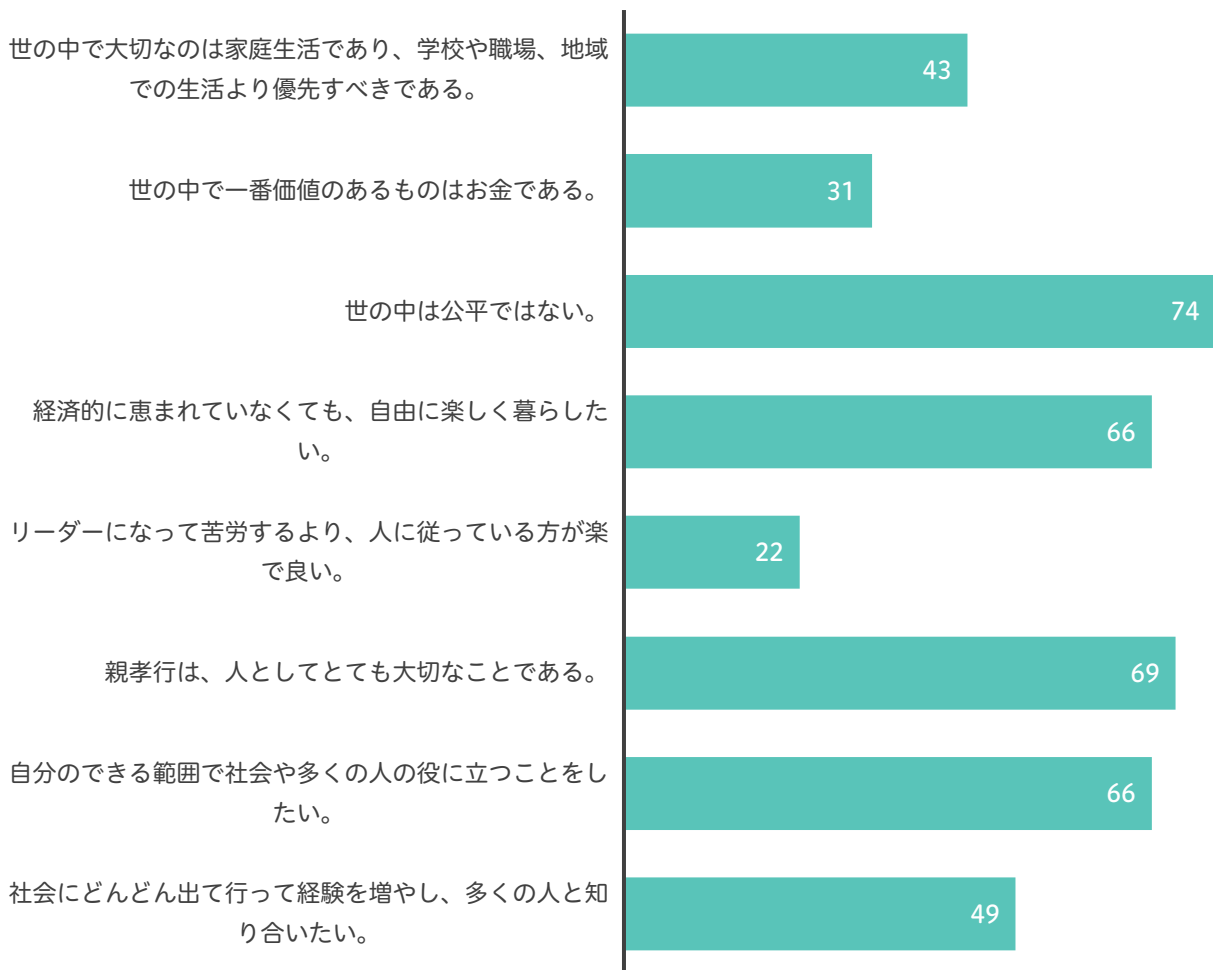
Q13.自分の将来について夢や希望を持っていますか。



【調査結果の概要】

「持っている」(36%)と「どちらかといえば持っている」(36%)が同数で最も多く、続いて「どちらかといえば持っていない」(18%)、「持っていない」(10%)となっている。

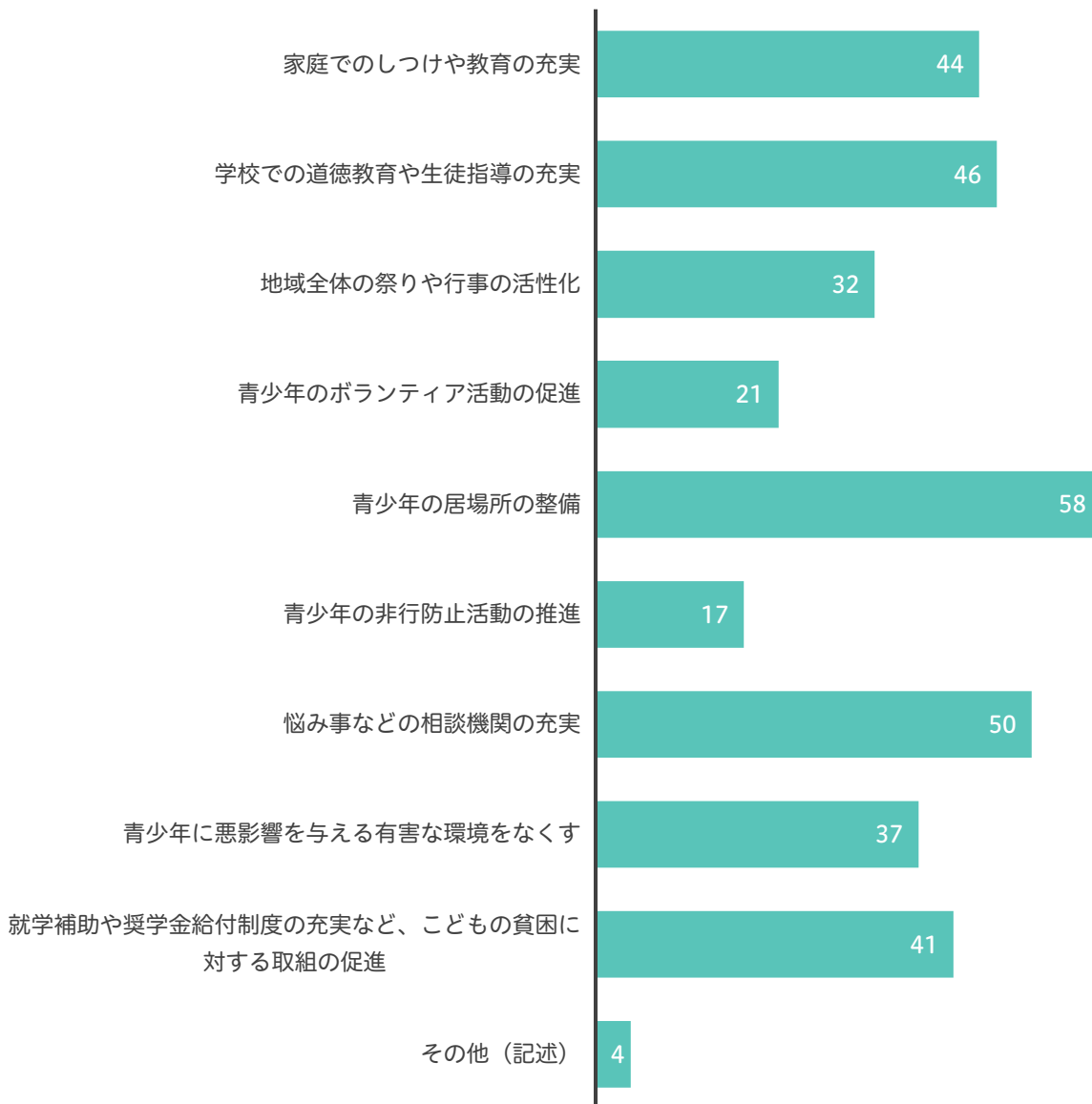
Q14.社会に対する意識として、あなたの考えに近い考え方を選択してください。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「世の中は公平ではない」(74件)が最も多く、続いて「親孝行は、人としてとても大切なことである」(69件)、「自分のできる範囲で社会や多くの人の役に立つことをしたい」(66件)、「経済的に恵まれていなくても、自由に楽しく暮らしたい」(66件)となっている。

Q15.青少年が心も体も健やかに育つために、どのような取組が必要だと考えますか。【3つまで選んでください】



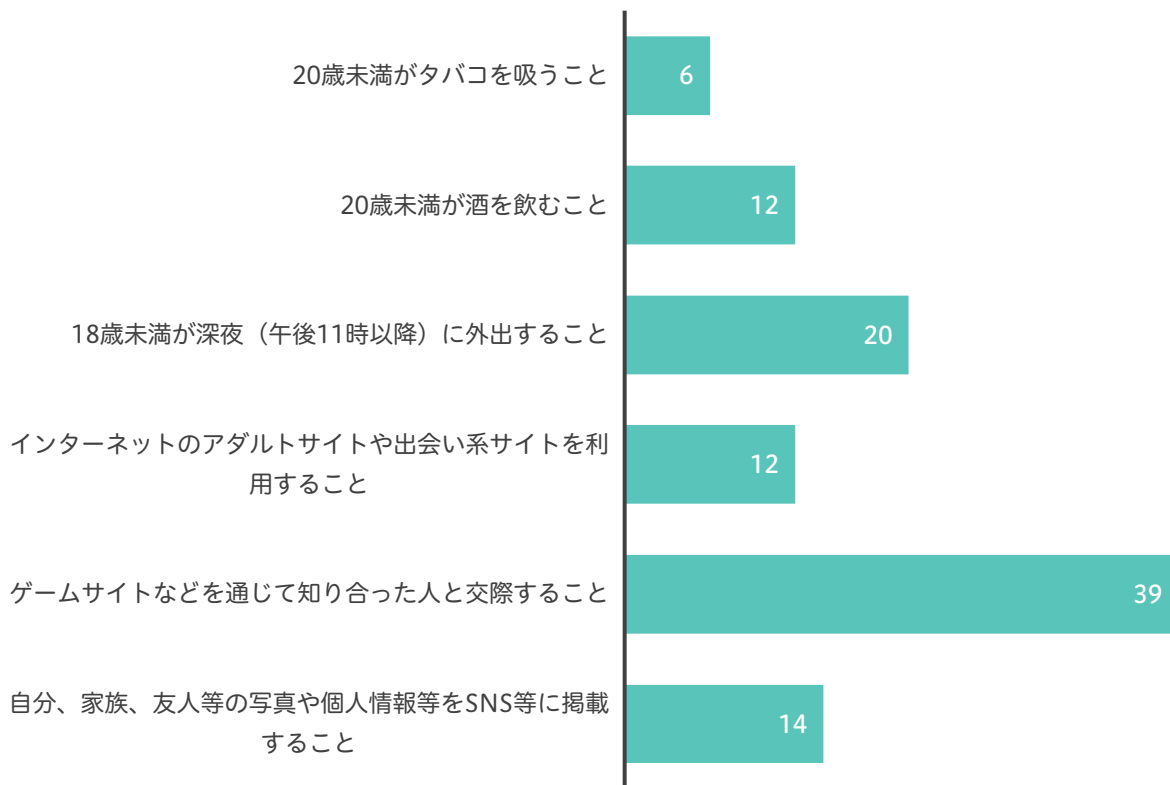
【調査結果の概要】

「青少年の居場所の整備」（58 件）が最も多く、続いて「悩み事などの相談機関の充実」（50 件）、「学校での道徳教育や生徒指導の充実」（46 件）となっている。

【その他の自由記述】

- ・ 家族が絶対味方であることと、それが家庭内での共通認識であること
- ・ よくわからない
- ・ 大人の子供に対する考え方、偏見をなくす
- ・ いろいろなことを知ること

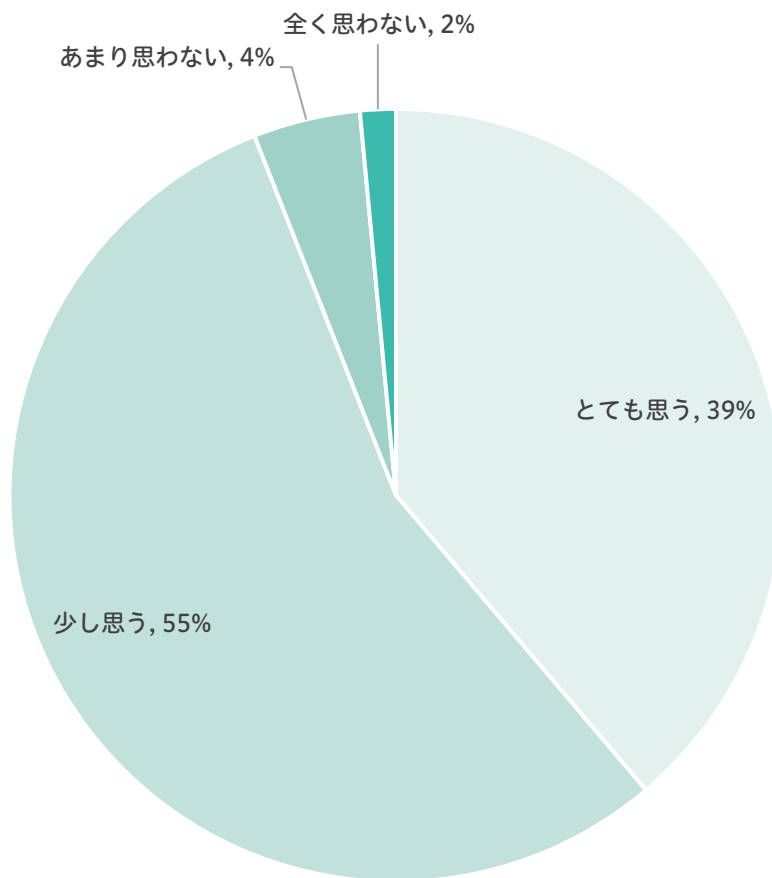
**Q16.あなたの考えでは、次のどの行為が「悪くない」と思いますか。
【全て悪いと思う場合は何も選択せず次におすすみください】**



【調査結果の概要】

「ゲームサイトなどを通じて知り合った人と交際すること」(39件)が最も多く、以下は「18歳未満が深夜（午後11時以降）に外出すること」(20件)、「自分、家族、友人等の写真や個人情報等をSNS等に掲載すること」(14件)と続いている。

Q17.誰かのためや社会のためになることをしたいと思いますか。

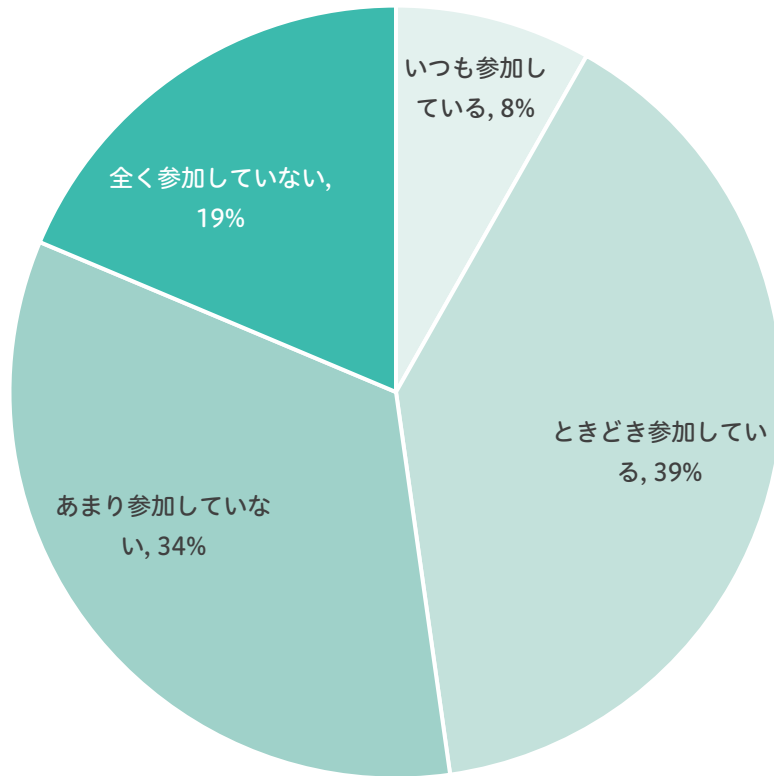


【調査結果の概要】

「少し思う」(55%)が最も多く、続いて「とても思う」(39%)、「あまり思わない」(4%)となっている。

Q18.社会貢献活動（ボランティアなど）に参加していますか。

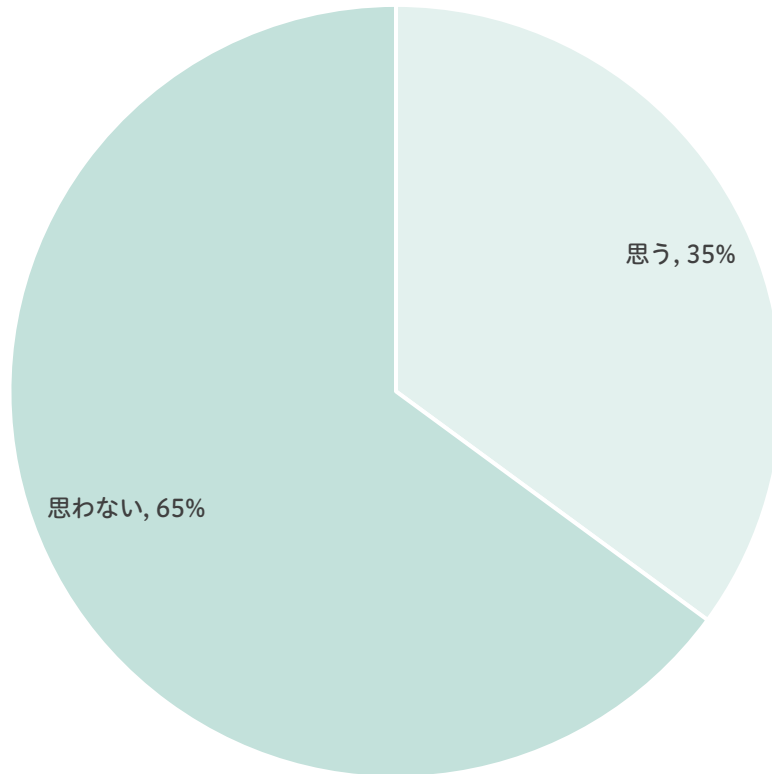
※募金活動、プルタブやエコキャップ等の収集、育成会等の地域活動など



【調査結果の概要】

「ときどき参加している」(39%)が最も多く、続いて「あまり参加していない」(34%)、「まったく参加していない」(19%)となっている。

Q19.海外留学や海外で仕事をしたいと思いませんか。

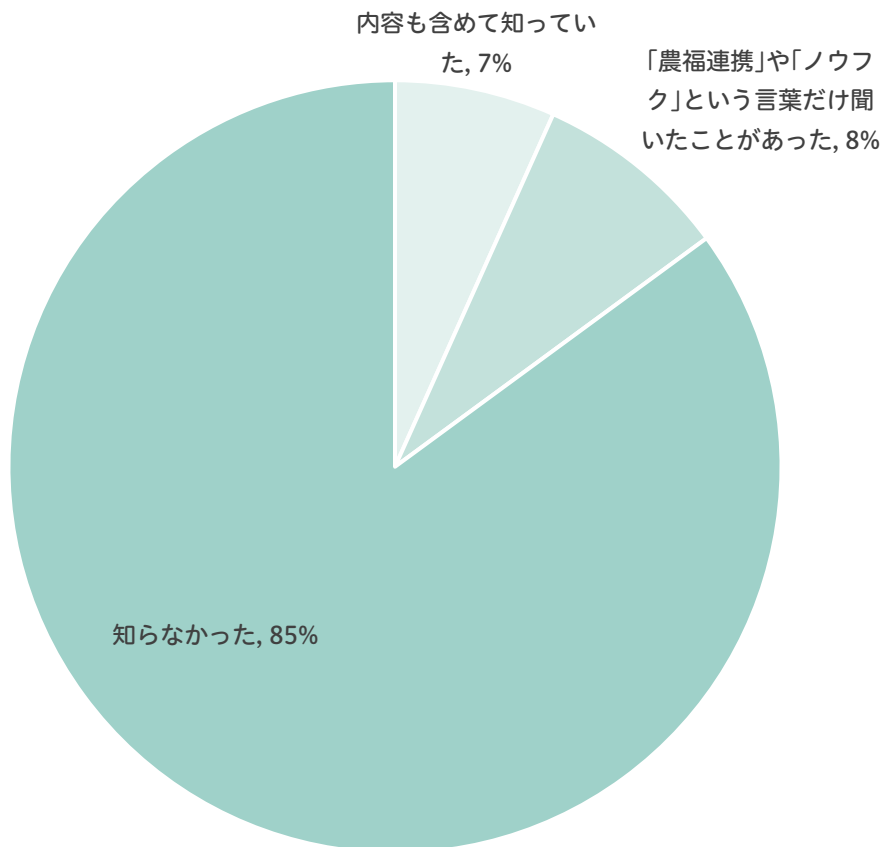


【調査結果の概要】

「思わない」(65%)が「思う」(35%)を上回っている。

Q20.農福連携の取組を知っていますか。

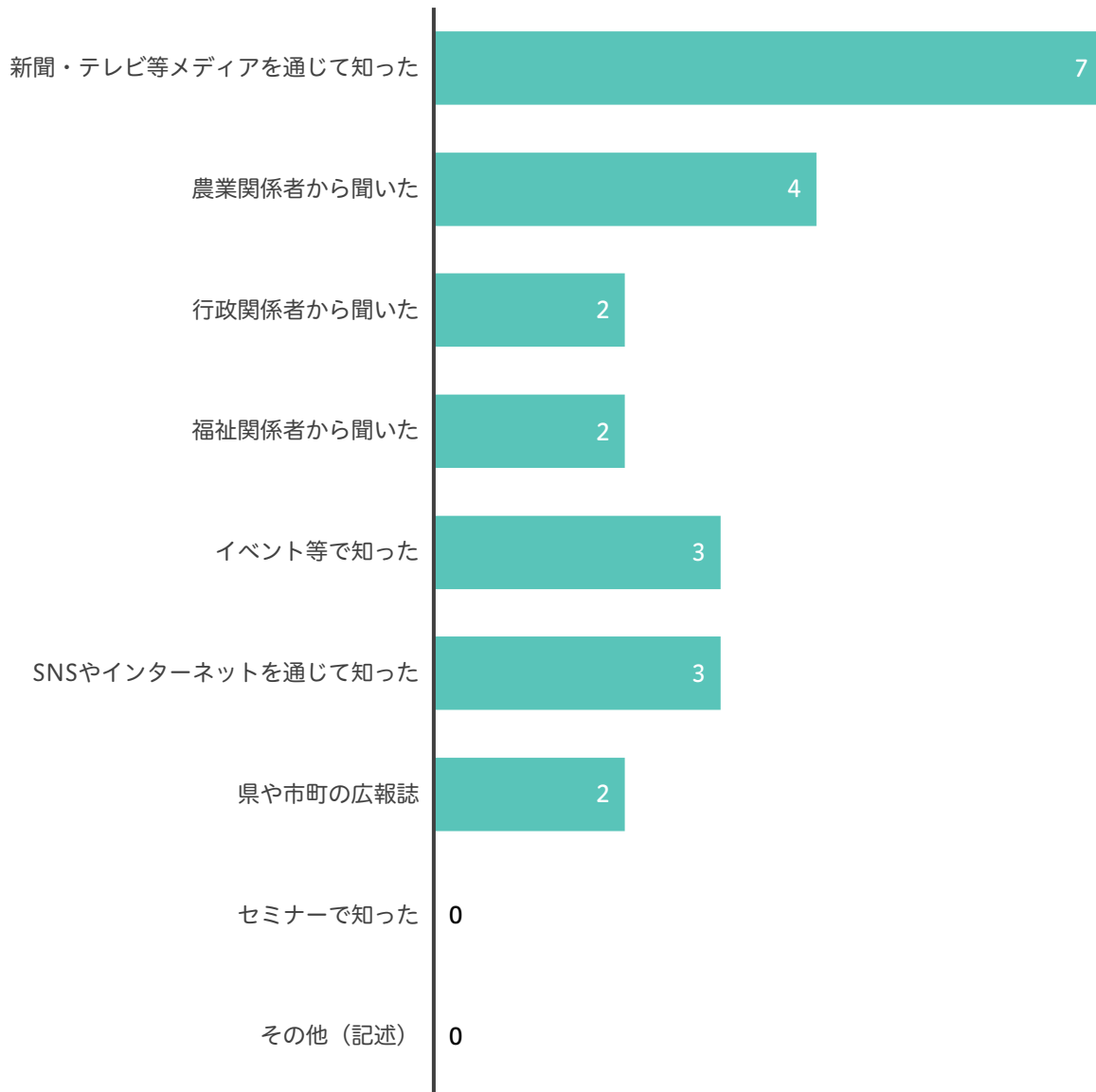
※農福連携（のうふくれんけい）とは、障害のある人が農業を通じて、自信や生きがいをつくり、社会の一員として活動していく取組



【調査結果の概要】

「知らなかった」（85%）が最も多く、続いて「「農福連携」や「ノウフク」という言葉だけ聞いたことがあった」（8%）、「内容も含めて知っていた」（7%）であった。

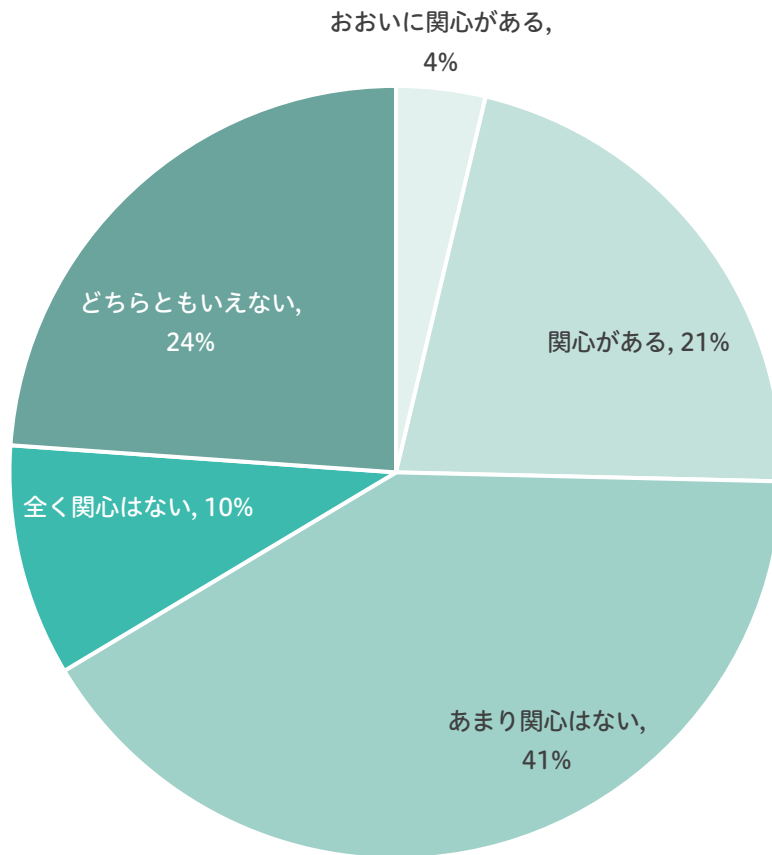
Q21. 「Q20」で「内容も含めて知っていた」と回答した方にお聞きします。農福連携の取組をどのように知りましたか。【いくつでも選んでください】



【調査結果の概要】

「新聞・テレビ等メディアを通じて知った」(7件)が最も多く、以下は「農業関係者から聞いた」(4件)、「SNSやインターネットを通じて知った」(3件)、「イベント等で知った」(3件)と続いていた。

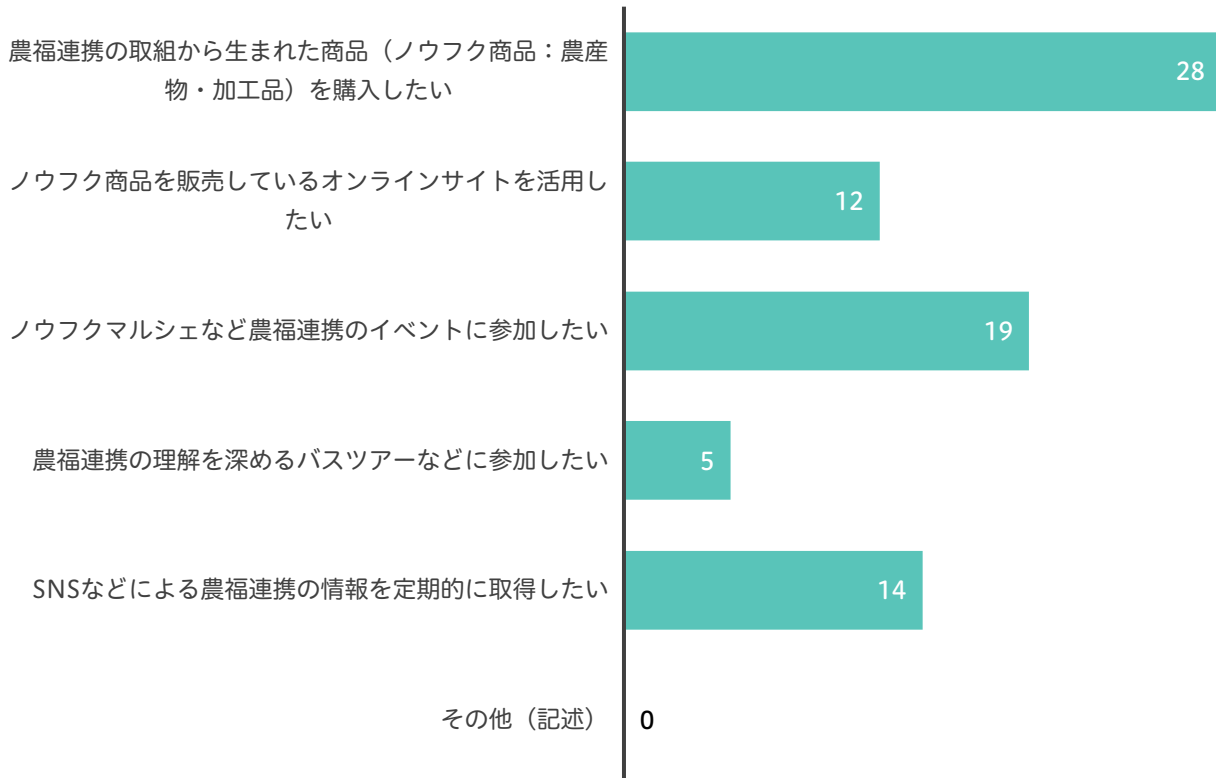
Q22.農福連携について関心はありますか。



【調査結果の概要】

「あまり関心はない」(41%)が最も多く、続いて「どちらともいえない」(24%)、「関心がある」(21%)、となっている。

Q23.「Q22」で、農福連携の取組について、「おおいに関心がある」、「関心がある」と回答した方にお聞きします。農福連携の取組についてどのように関わりたいですか。【いくつでも選んでください】

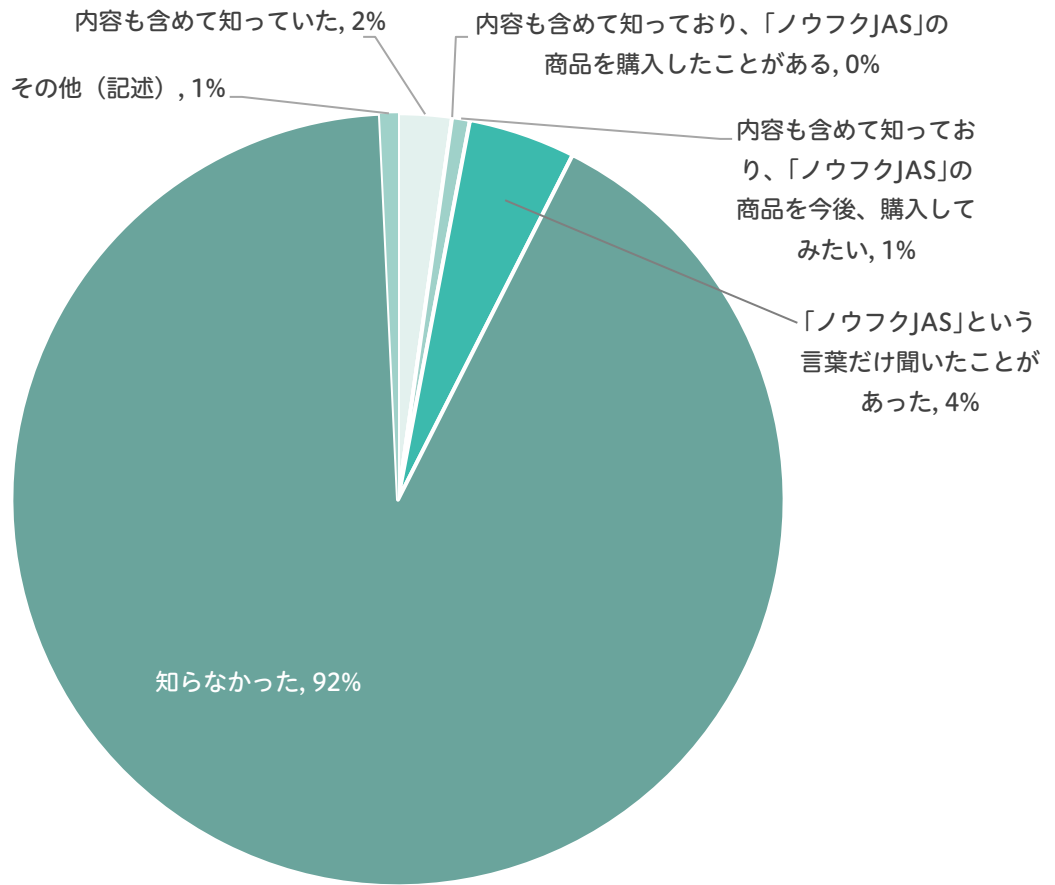


【調査結果の概要】

「農福連携の取組から生まれた商品（ノウフク商品：農産物・加工品）を購入したい」（28件）が最も多く、以下は「ノウフクマルシェなど農福連携のイベントに参加したい」（19件）、「SNSなどによる農福連携の情報を定期的に取得したい」（14件）と続いている。

Q24.ノウフクJASを知っていますか。

※JASとは農林水産物・食品の品質や仕様を揃えるための規格であり、ノウフクJASとは、障害者が生産行程に携わった食品等の規格



【調査結果の概要】

「知らなかった」(92%)が9割以上を占めており、以下は「「ノウフクJAS」という言葉だけ聞いたことがあった」(4%)、「内容も含めて知っていた」(2%)と続いている。